

・調査対象 栄養学部卒業生 44名

Central Campus of Technology in Dharan

Padma Kanya Campus

CAFODAT-college.Patan

・地域 Kathmandu 盆地の内部 35% 外部 65%

・年齢 20-25 14%26-30 51.2%30-35 25.6%35以上 9.3%

・調査方法 Online Survey Methods・調査期間 2023年8月

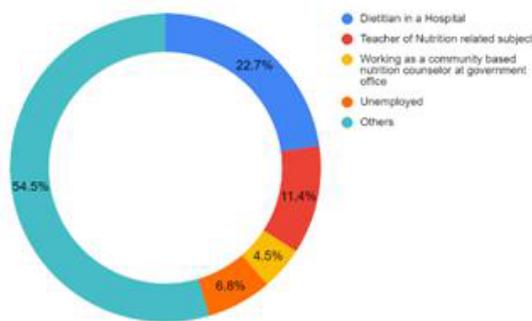
・調査内容

①ネパールの栄養学・栄養学分野の根本的な問題点

②栄養学系科目の卒業生が直面している障害やハードル

③栄養学科卒業生の現在の就職状況

「分析の一例」現在の仕事の状況



44人の回答者のうち、54.5%が「その他」と回答し、国際機関や地域、個人治療所の栄養士として働いている。22.7%が病院の栄養士として働き、11.4%が栄養関連科目の教師として働き、4.5%が官公庁の栄養カウンセラーとして働いている。6.8%の失業者がおり無視できない。

「結論」(抜粋)

- ① この調査で最も注目される問題点は栄養士に対する許認可制度が抜けていることである。このことで栄養士が職場や一般社会で技術を持った人材として認識してもらえないのが現実である。大学卒業生が本来のあるべき姿の仕事についていないのです。
- ② ネパール政府は各病院に少なくとも2人の栄養士を医師や看護師と一緒に働かせるべきであるのに、現状は程遠い。栄養士の大多数は病院の栄養士として働いているが、病院食堂の栄養士として働いている人は殆どいない。
- ③ 栄養士になった理由は、適切な食事カウンセリングで人々の健康を支援したり、蛋白質エネルギー栄養失調(PEM)の症例を管理したいからだといっています。
- ④ 実感はないが、患者が回復すると患者やその家族から多くの賞賛を受けたり、病気の予防と管理のために栄養学を生かすことはこの上ない喜びだと栄養士は希望をもっている。(これは救いである。)しかし、食事計画が全て医師によって行われるところもあり、栄養士の席がないのです。まだまだ患者は薬と医師に完全に依存して、栄養士の重要性については全く無知であると、栄養士は断言している。